

## 令和4年度第1回松江市総合教育会議

日時：令和4年11月4日（金）16：00～ 場所：松江市立古江小学校

出席者：松江市長 上定昭仁

松江市教育長 藤原亮彦

松江市教育委員 多々納道子、塩川寛、金津式彦、原田順子

学校関係者 （古江小学校）校長 丹羽隆、教頭 米原哲治、  
教諭 錦織あすみ

市長部局 政策企画官 藤井一、政策企画課政策係長 本田裕美子

教育委員会事務局 副教育長 寺本恵子、副教育長 成相和広  
次長（教育総務課長） 玉木一男、学校教育課長 太田強  
学校教育課小中一貫教育推進係長 安部顕  
教育総務課総務係長 今田浩二

### ○事務局 成相副教育長

失礼します。それでは、皆様お揃いですので、意見交換会を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。これより令和4年度第1回松江市総合教育会議の意見交換会を開催いたします。

本日、司会を務めさせていただきます副教育長の成相でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、上定市長から御挨拶を申し上げます。

### ○上定市長

本日はお時間をいただき、ありがとうございます。教育委員の皆様にはお忙しい中、先日は「松江城授業プロジェクト」を、また、本日は錦織先生の授業を御視察いただきましたことに御礼申し上げます。

先ほど授業を拝見して、「総合的な学習」の授業がどのように「総合的」となっているのかということを私なりに解釈してみました。解きほぐしてみると、ICT教育、ふるさと教育、英語教育が組み合わせられています。

この中で ICT と英語は使いこなすことで有効な「ツール」となります。生まれたときから英語を話せる人はいないので、「ツール」にするまでには時間がかかりますし、ICT も最初から分かっている人は少ないので勉強するわけですが、最終的にはそれらをいかに使いこなすかというところが大切になってきます。英語と ICT を「ツール」として身に付け、また、ふるさと教育により自分の原点を知ることから世界が広がり、子供たちの成長機会が広がっていくのだらうと思っています。

今はその過渡期、転換期にいると感じています。海外に行って、算数も理科も英語で授業を受ければ、いつの間にか英語は「ツール」として身に付くでしょうし、授業にタブレットが用いられるのがスタンダードになったら、必然的にタブレットも「ツール」になっていくと思います。我々は今その入り口にいるという気がしています。

話は変わりますが、令和 4 年度第 1 回目の総合教育会議となりますので、前回の会議後に、松江市として取り組んだことを概括的に申し上げます。まず、3 月に松江市総合計画『MATSUE DREAMS 2030』を策定しました。8 年後の 2030 年を目指して、今何をなすべきかを「バックキャスト」して取りまとめた計画です。目指すべき将来像として『夢を実現できるまち 誇れるまち 松江』を掲げていますが、これは完全に子供たちを意識した言葉です。『誇れるまち』というのは、松江がいかに素晴らしい魅力的な場所であるか、私が子供の頃には気付いていなかったこと、それを子供たちに分かってほしいという想いです。この点、今は「松江城授業プロジェクト」などの優れた取組が行われています。

もう 1 つは、『夢を実現できるまち』ですが、人口が流出する原因として、せっかく良いところで育ったのにそれを自覚できていないことが挙げられます。そして、もう 1 つ。自分の夢ややりたいことは都会地でなければ叶えられないといった、誤解や固定観念。それを打破するために今は打ってつけのときで、コロナ禍を経て、都会で暮らすのが成功者で、田舎にいる人はくすぶっているという構図がなくなってきました。むしろ、自然環境が豊かな田舎で最先端の仕事をするというのがステータスになりつつあります。それだけが全てとは言いませんが、「田舎」に住む我々が言い訳ができなくなっているのです。

目指しているのは、この地において全ての夢が叶えられるという環境です。それに加えて、子供たちがいろいろなことにチャレンジしてみようと、全国に海外に出たとしても、生まれ育ててもらった松江に感謝の気持ちを持ち、「恩返ししたい。」と思え

れば、また松江に戻ってくることに繋がると考えています。

『夢を実現できるまち 誇れるまち 松江』を目指し、教育の観点で2つ、2030年の将来像を掲げています。その1つが、『ここに生まれて良かった』と実感できる松江です。もう1つは、『夢は叶うって思う』松江です。夢を諦めずにチャレンジし続けられる風土になることが、教育の観点で大きなポイントだと思います。

「松江城授業プロジェクト」は、この両方を兼ね備えた優れた授業であると確信していますが、松江市が今後どのような方向性で教育を展開するのか考えていく必要があります。今は松江の子供たちが明るい未来を開けるかどうかという岐路に立っているものと思います。そうした点も含めて皆様から忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

長くなりましたが、今日もよろしく願いいたします。

#### ○事務局 成合副教育長

ありがとうございました。

続きまして、丹羽校長に御挨拶をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

#### ○丹羽校長

それでは皆様、失礼いたします。古江小学校校長の丹羽でございます。今日はようこそ古江小学校へ。先ほどお話をいただきました上定市長さんをはじめ、有識者の方々にお集まりいただき、大変光栄に思っています。また、私自身も楽しみにさせてただいておりました。

今日の授業は素のまま、ありのまま、普段からあのような感じでした。そういうことで、現場に足をお運びいただき、子供たちの姿を見ながら語っていただけるということは大変ありがたいと思っています。どうかよろしく願いします。

それでは、手短かに本校の学校経営のことだけ少しお話させていただきます。

学校教育目標は、未来を目指した自立・共生・挑戦としております。特に今年度は共生に軸足を置いていこうということで、教職員一同取り組んでおります。なぜかという、やはりコロナ禍であること、あるいは世界を見ると紛争や戦争、ロケットなど、いろいろなニュースがあります。そういう中で、やはり共に生きるということ

をいろいろな場面で、学年の発達段階に応じて考えさせたいという意味で、そこに軸足を置いて今年度はやっております。

とはいえ、その自立・共生・挑戦ということは、少し低学年の子たちには難しいということで、私は子供たちには古江っ子の合い言葉ということで2つ話しております。『フル笑顔』、古江と笑顔を合わせた造語ですけれども、要はみんながフル笑顔で学校に来ることができれば、これは共生、共に生きるということになっているだろうということなのですけれども、そういう学校にするにはどうしたら良いだろうねと、教員もですけれども、子供たちと一緒に考えていきたいということでございます。

もう1つが『気働き』という言葉で、気は気持ちの気なのですけれども、気を使うとかそういう意味ではなくて、本気・元気・やる気の気です。「今日の授業、子供たちは本気でやっていたかな。」とか、あるいは「運動会は元気を出してやっていたかな。」と。そうすると、「気働きしているね。素敵だね。」というような感じで、子供たちには行動目標的にというか、分かりやすく話をしているところです。

既に先ほど市長様の方から、示唆に富む御指摘をいただきましたが、今日の会議の中でいろいろな御意見を聞かせていただいて、文字どおり本校がフル笑顔の古江小学校になりますように、様々な視点から御意見を頂戴できたら嬉しいです。

今日はどうかよろしく願いいたします。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

それでは、続きまして、教育委員会として松江城授業プロジェクトをどのようなものとして設定しているのかということについて太田学校教育課長から説明していただきます。よろしく願います。

#### ○事務局 太田学校教育課長

学校教育課長の太田でございます。私からは、まず、ふるさと教育・ふるさと学習の概要についてお話をさせていただきたいと思っております。

このふるさと教育・ふるさと学習ですけれども、県の重点施策として、平成17年度からスタートしているものでございます。年35時間以上、各学年で行うこととされており、地域の教育資源、「ひと・もの・こと」を生かした教育活動ということが定義と

なっております。

松江市としましては、各校でふるさと教育を進めていただいている一方で、松江市の学校教育課の事業として進めているプロジェクトもございます。今回の松江城授業プロジェクトもその一環ということで、資料の図の左側が各学校で行われているふるさと教育、それから右側が学校教育課の事業ということでございます。

右側に記載している以外に、例えば大口町へのサマースクールも該当します。それから、出雲和紙についての学習も該当するというところでございます。

2枚目のスライドです。松江市のふるさと学習のカリキュラムの例を記載しております。小学校1年生からふるさと学習を行っており、身近なところから始めまして、地域を広げているというような状況でございます。低学年は、生活科を中心に、まち探検や生きもの探しなどを行っております。現在ですと、秋見つけといった、地域に出かけて生活科の単元を展開しているというような状況でございます。6年生の赤字の箇所の松江城授業プロジェクト、これは歴史の授業と併せて行っているというような状況でございます。

3枚目は松江城授業プロジェクトの流れを記載しております。この平成27年のプロジェクトチームの立ち上げ、事業計画の立案といいますのは、松江城がちょうど国宝に指定された年でございます。この年に学校関係の教職員の皆さんとか、それから有識者の方がお集まりになって、どのように授業で展開することができるかということで検討が進められました。

翌平成28年から、市立の小学校6年生を対象として松江城とその近くの松江歴史館・ホーランエンヤ伝承館に出かけており、バス代の補助を受けたり、あるいは解説をしていただいたりして実施しております。

令和2年、令和3年とコロナ禍でいろいろな行事が中止になった状況でも、この松江城授業プロジェクトは進められてまいりました。そして、令和3年に参加児童が1万人を達成し、今年度が7年目ということでございます。

見学だけで終わらないようにということで、今回もですけれども、まずは事前学習を授業でやっていただいております。松江城のことや堀尾吉晴等の学習を授業でやっていただいて、子供たちにはハンドブックを配布しております。現地学習をやってもらった後で、事後学習ということでまとめの学習をやっていただいているということでございます。

4 枚目です。松江城授業プロジェクトの感想を一部記載しております。子供たちの感想を記載しておりますが、ほぼほぼ肯定的な感想ばかりです。ということで、我々としては、中心部から離れたいわゆる旧八束郡の小学生にも、松江市民としてのアイデンティティの醸成につながっているというように感じ取っているところでございます。

ただ、このままで良いとは認識しておりませんので、しっかり検証して、成果を明らかにしていくということが今後の課題だというように捉えているところでございます。

以上で説明を終わります。

○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

続きまして、この度授業を担当していただいた錦織教諭から、授業のねらいや自評について説明をお願いいたします。

○古江小学校 錦織教諭

今日は授業を見ていただいてありがとうございます。6年2組の担任をしています錦織です。

先日、松江城と歴史館の見学から帰ってきました。先ほど見ていただいた授業の前に、一度見学で見てきたことのメモを基に、一人一人がまとめてみたのですがけれども、そのときも本当に子供たちが夢中になって、たくさんのことを関連付けてまとめる姿が見られて、この学習に対してすごく興味をもって取り組んでいるなというように感じているところです。

見学に行く前も、2時間ぐらい事前学習をさせてもらったのですがけれども、「松江城について知っていることある。」というように聞くと、その時点で「堀尾吉晴さんが建てた。」だとか、「井戸がある。」とか、そのような情報は子供たちもよく知っていました。そもそも松江城には3年生のときにも見学に行っていて、そのときにも3年生なりにいろいろなことを見つけて帰ってきたのかなというように感じていました。

6年生になって社会の歴史の学習が始まって、そこで時代を学んだり、見学に行ったときも徳川家康や豊臣秀吉などのすごい人たちの家来だったという話も聞いたりし

て、堀尾吉晴さんがどのような思いで松江城を建てられたのか初めて考えたとか、だから攻められにくい町づくりとか城づくりになっているということに改めて気付いたという意見がたくさんありました。ですので、6年生の今の時期に、やはり歴史を学んでからこのタイミングで行くということが非常に価値があることだなと思えますし、松江城がなぜ国宝なのかということをしごく体感できたのではないかなというように感じました。

今日の振り返り授業についてですが、見学から帰ってきて、どのようにまとめようかなと考えたときに、今年からALTのカイ先生という先生が古江小学校に来られて、先生はそれこそあまり日本語も話すことができないのですけれども、日本は好きで、そして松江のことも知りたいという思いをもっておられて、学んだことを知らない誰かに子供たちが興味をもって伝える相手は誰だろうと思ったときに、カイ先生が良いかなというように考えました。

英語で伝えることはもちろん大事ですけれども、学んだことをなるべく伝えてほしいなという思いがあって、今日はまずは日本語で考えて、これから何か難しい単語などはなるべく使わずに、今まで習ったことを使って表現できるように工夫していきたいなというように思っています。

今日は授業を見ていただいて、ありがとうございました。

以上です。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

それでは、ここから意見交換に入っていきたいと思いますが、先日の見学、それから今日の授業の様子、先ほどの説明等を踏まえて、御質問や御意見などをいただけたらと思います。

これから皆様にお一人ずつ御発言いただいて御意見をお伺いしていくのですけれども、意見交換ですので、それで全部時間を使いたくないなと思っておりまして、最初の御意見のときには少し時間を残して、出てきたテーマのところで意見をそれぞれ交わしていただきたいなと思っております。御協力をよろしくお願いいたします。

それから、松江城授業プロジェクトのことを考えるとともに、今日、授業提供していただいた錦織先生、6-2の子供たちの良い学びとなるような意見交換会にしたいと

思っています。どうぞ御協力いただきたいと思います。

それでは、まず市長からお願いします。

#### ○上定市長

「すごいな。」と思ったのは、松江城を見た生徒たちが帰ってすぐに樹形図を書いたことです。樹形図による整理はビジネスの世界でも浸透していて、「これとこれがつながっていたのか。」といった気付きを得ることが多いのですが、あそこまで精緻に書けるのはすごいですね。錦織先生の御指導のおかげだと思います。また、「松江城授業プロジェクト」が4時間ぐらいの長丁場ということを知りました。

私は前半の2時間しか御一緒できませんでしたが、子供たちが集中力を切らさず、活発に「それは何で？」などと質問していたので、関心をもってくれていると感じました。もちろんガイドさんの力量もおありになると思いますが、初めて気付いたことがたくさんあるから、退屈せずについてきてくれていると感じますし、逆に言えば、松江城はそれだけ魅力がある場所だと自負したようなところもあります。先生はどのように御覧になっているのかコメントをいただければと思います。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございます。

せっかくのタイミングですので、今の市長の御質問について説明をお願いします。

#### ○古江小学校 錦織教諭

確かに今回は非常に長時間の見学でした。私は去年も6年生を担当していましたが、去年はお弁当も食べずに、午前中だけで松江城と歴史館を見学させてもらったのですが、今年はお弁当も食べて、2時40分ぐらいまでみっちりやりましたので、確かに疲れは後半戦に見られましたが、本当にメモもぎっしり書いていまして、最後まで非常に興味をもって取り組んでいました。

歴史を学んだということが関連付けて考えられた部分は非常にあったのではないかなというように感じています。

以上です。



○事務局 成相副委員長

ありがとうございました。

それでは、多々納委員から順番にお伺いして、最後は教育長にということでお願いします。

○多々納委員

失礼いたします。教育委員の多々納と申します。

先日の松江城と歴史館の見学もさせていただき、今日はそれを基に授業を拝見させていただいて、本当にありがとうございました。

見学のときも子供たちの様子を見て思ったのですけれども、すごく学びの態度ができていくなというような、そういうことを強く感じました。市長さんもおっしゃいましたけれども、本当に熱心に子供たちが参加して、また、ガイドさんもすごく工夫をされて、石垣の刻印を見つけようというような、私もそうでしたけれども、やはり自分の課題になると一生懸命夢中になるというような工夫がなされており、恐らくそれが子供たちにとっての課題となって、それが今日の授業でカイ先生に石垣の刻印や松江城の工夫など「こういうことを伝えたい。」という、意欲にしっかり結びついていったのではないかなと思いました。

松江城が国宝になるというニュースが流れて、今日から国宝になりましたという、そういう日にちがございませぬ。そのときに松江城を改めて見ると、「ああ、やはり素晴らしいな。」と感じました。国宝になるというニュースのときまでは、「いや、国宝になってもならなくても松江城は松江城なので良いのではないか。」と個人的には少しそういう気もしていたのですけれども、国宝に指定された日は確か晴天だったと思います。そして松江城を改めて見ると、「やはり素晴らしい。日本に5つしか現存しない立派なお城だ。」ということをしごく心に刻みました。

恐らく子供たちも実際に今まで見学をしたことがあったとは思いますが、ガイドさんからきちんと説明を聞くと松江城の重要性を改めて感じる事ができて、それを授業の中にしっかり生かすことができたのではないかと思います。

松江城という、単なるものとしての素晴らしさというよりも、そこに様々な秘密が隠されていて、それを改めて学習して、それをまた人に伝える、ALT のカイ先生に伝えるという、そういう一連の流れが子供たちの学習意欲・学習課題を目覚めさせ、そ

の成果を今日の授業で見せていただいたのではないかなと思います。

本当に先生、ありがとうございました。素晴らしかったです。この続きもできれば拝見したいところですが、なかなか時間がございませんので、本当にありがとうございました。

#### ○原田委員

失礼します。教育委員の原田といいます。よろしくお願いします。

今日はありがとうございました。多々納委員さんもおっしゃったように、とてもクラスが学びの姿勢に向かっているというところに、まずはすごく感心したところで、やはり先生の引きつける力があるのだろうなというように思いました。

あと、皆さんの椅子とかロッカーとか、みんな名前がローマ字表記だったので、普段から英語をツールとして使われているのかなというように思いました。市長もおっしゃっていましたが、やはり英語や ICT などはツールだと思っているので、それら自体が目的になってしまうと、本来の目的から少し外れてしまうかなという懸念がありますし、今日のグループ学習などにおいてもタブレットでパワーポイントをつくることに熱中しがちになると思いますが、クラスの子供たちは話し合いのほうに重きを置いてやっているグループが多かったので、それはすごく良かったかなと思いました。

あと、私、今週出張に行きまして、ふるさと教育について学んでまいりました。そこで言われていたことは、「ふるさとを愛する子は、ふるさとに愛された子」だということです。「戻ってこようと思う子は、そのふるさとといかに愛されてきたか、それにかかっている。」というお話を聞きまして、「地元にいる間に、どれだけ地域の人と触れ合ったりとか、自分のところで誇れるものに触れてくるか。ふるさとを誇れるということは、それは自分が誇れる子になるということにもつながる。」というお話も聞きました。ですから、「自分のふるさとに対して誇れるものがこんなにあるのかと知ること、例えばそれを人に発信したときに『すごいね』と言われることが、自分が褒められたような気持ちになる。そういうことにもつながっている。」という話を聞いて、そのとおりだなというように思いました。

テレビ番組で自分の県が採り上げられているときに興味をもって観るということも恐らくそういうことなのかなというようにも思いまして、それにつながるにはどうし

たら良いかなということを見ると、例えばこのような学習や、出来上がったものをたくさんの人に見てもらいたいのです。例えば近場だと保護者ですけども、発表の機会に是非保護者も入ってもらおうとか、今回でしたら、松江城のガイドさんと呼んでみたりとか、そういう方にたくさん聞いてもらって、たくさん褒めてもらう。子供たちの発表を色んな人に褒めてもらいたいというように思います。

ですから、是非カイ先生のお友達を呼んでいただいたり、英語の先生方にも見てもらったりして、とにかくたくさんの方に発表まで見てもらいたいと思います。それで終わるのではなくて、それを生かすことも大事だと考えていますので、是非ともそのようなつながりができたら良いかなというように感じました。

以上です。

#### ○金津委員

教育委員の金津です。1日と今日、本当にありがとうございました。

私もこのカリキュラムが本当に素晴らしくできているなというように思いまして、要素としては、やはりふるさと教育であったり、英語、デジタル、そして今日やっていた続きになるのでしょうかけれども、そうやって人に学んだことを伝えたり、良さを伝えたりする、プレゼンみたいなことですね。そういう要素で組み立てられているカリキュラムだと思うので、非常に良いカリキュラムだと思います。

ふるさと教育の部分では、松江城などについての話にも私も本当に熱心に聞き入ってしまいました。本当に面白い話でしたが、途中までだったので松江城の下のほうだけしか詳しくなれなくて、上のほうは全然詳しくない人になってしまって少し残念ですが、英語とデジタル機器を使って、しかも最後はプレゼンをするという構成で、日本人は伝える力だとか、プレゼンする力、PRする力が弱いと国際的によく言われますよね。ですから、非常に良いカリキュラムだなと思っています。

私が感じたのは、私が小学校のときの授業風景と全く違うということです。子供たちはデジタル機器を使いこなしていて、本当に彼らはもうデジタルネイティブの世代だということをまざまざと見せつけられたのですけれども、そうしてデジタルとか英語とかが当たり前になってくると、都会に出ていくどころではなくて、日本すら出て行ってしまわないかなどといったことを今日ふと危惧してしまいました。そうすると、ますますふるさと教育というものが本当に重要になってきますし、先ほど市

長と原田委員がおっしゃったとおり、ふるさとのことを誇りに思ってもらって、やはり帰ってきてほしいなという思いをもっています。私は今日『子ども夢☆未来』塾で島根中学校で講演をしてきたのですけれども、そういった話もさせていただきました。全国的にも、島根県も、そして松江市も人口減少していて、その状況の中で県も市も移住や定住の取組を熱心にやっておられるわけですけれども、基本的にはやはり生まれ育った者が支えていかないとだめだよ、そういうことを考えてくれたらありがたいみたいな話をさせていただいて、ますますふるさと教育というものが本当に重要になってくるのではないかと改めて思いました。ありがとうございました。

#### ○塩川委員

失礼します。塩川と申します。よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

子供たちの姿については、皆さんおっしゃったので重ねて言いませんけれども、先ほど校長先生からお話があった「フル笑顔」、「気働き」という2つのキーワードがそのまま子供たちの姿に反映されているなど、本当に子供らしい子供といますか、反応の良い子供たちだと思いました。

グループ学習でしたが、みんながいろいろ意見を出し合って、リーダーはリーダーとして、中にはなかなかついていけない子供もいましたけれども、しっかり助け合っで教え合っている姿はすごく良かったのではないかなと思ひました。

それから、今の松江城授業プロジェクトは市内の6年生にかなり定着してひいて、「6年生になったら松江城についていろいろ勉強するんだぞ。」ということは共通認識となっているのではないかなと思ひます。この取組は是非続けていただきたいということと、それから、松江城について学んだ後に、今度は希望者が犬山城に行っで、そこでまた新たに追及、探求していくという機会も設けておられるということなので、是非このプロジェクトだけではなくて、次につながる仕掛けがあると良いなと思ひました。

先ほど御説明があつたとおひ、各学年がそれぞれテーマを決めてふるさと教育ということで行組んでおられるようすけれども、予算に関わることなので大変だと思ひますが、何か松江城授業プロジェクトのような、「何年生になったら、こういう学習ができるぞ。」というような取組を小学校でも中学校でも何かできると良いと思ひました。

長くなって申し訳ないです。今日の午前中、退職公務員連盟の県大会があって、市長さんにもお出かけいただきました。その会において、松江支部から伝統文化を継承するという発表があり、「自分たちもいろいろな知識や経験があるので、是非ふるさと教育に参画していきたい。」ということをお伺いしました。「もっともっと松江市は、ふるさと教育に力を入れてほしいということ伝えていただきたい。」という伝言を受けましたので紹介に併せ、お願いをさせていただきました。

#### ○藤原教育長

今回の松江城授業を見せていただいて一番感じたのは、教師の皆さん方の教える喜びをダイレクトに感じられる子供たちだったなということです。知る喜びというものを本当に全面的に出してくれて、教えがいがある子供たちだなというようにすごく感じました。

常に教員不足という状況にあるので、これこそ島大の教職を目指す学生たちに、この授業を見てもらうとすごく良いのではないかなと思って私は見ておりました。まず1点目はそのようなことを考えました。

それから、先ほどから御意見をいただいているとおり、ICT や英語というものはいろいろな形で使いこなすべきツールだということです。今の子供たちが、将来どういう経済・社会環境で働いて、どういう仕事をしているのか、どういうライフスタイルの中にいるのかということは、あまりに時代の変化が激しいのでよく分からないわけですが、今取り組んでもらっている ICT や英語というものは、基礎的な能力として、これを使いこなせないとなかなか将来やっていけないような基礎的なツール・テクニックだのように思っています。

いずれにしても、どう使いこなしていくのかということについては、最終的にまとめるときのコミュニケーション能力であったり、最終的なプレゼン能力であったり、そういった能力が求められていくのだろうなということを常に思っているところでございます。

それから3点目ですが、今年の4月から全学校で学校運営協議会、いわゆるコミュニティスクールというものが始まったところです。これは先般の教育委員会会議の中でも少し紹介したのですが、この間、秋鹿公民館で、児童生徒に配付しているタブレットを公民館に持ってきてもらって、そこでプログラミング教室をしました。

これは地域に IT エンジニアの方がいらっしゃって、この方たちは I ターン・U ターンで来ておられる方なので、勤めている会社は東京にあって、住んでいるところは秋鹿という皆さんでした。

この人たちが地域の秋鹿の子供たちにいろいろな形でいろいろなことを教えてあげたいという気持ちをもっておられ、横のつながりでいろいろな人を呼んでこられて、「秋鹿学びラボ」というものを公民館で開催しました。初回はプログラミング教室という形でしたが、たくさんの子供が来てくれていて、公民館長や学校長、地域のお母さん方など、たくさんの方に来ていただきました。

一方で、子供たちに教えたいという人たちも集まって来ていまして、プログラミングもありますし、「ものづくり教室を是非やらせてくれ。」ということで、自分たちで作っているものをたくさん持ってきてくれたり、「科学実験を実際にそこでやってみたい。」などといった提案もありました。島大の教授もお見えになっていまして、「自分は昆虫の生態が専門なので、そういうところを教えてあげたい。」という話をしておられたり、高専の OB の人が、「自分は短歌を教えている。これも一生懸命やれば、このように本が出せるよ。」と自分が出した本を持ってきて説明しておられました。

ですから、これから秋鹿学びラボでは、いろいろなテーマで学習のシリーズが展開されていくと思っています。そういう形で、自分たちの地域で生まれた子供たちを自分たちで育てていくという発想が各地域で出てくると、とても子供たちにとっては良いことにつながっていくと思いますし、最終的には、ふるさとへの愛着というものにつながっていくのではないかと思います。

私も長いこと行政にいましたので、常に定住というものを意識しておりまして、昔からカムバックサーモン作戦と呼んでいましたが、サケは必ずふるさとに帰ってくるということで、ふるさとへの思いというものをしっかり植え付けていくと、必ずこの松江に帰ってきてくれるのではないかと思います。

先ほどの IT エンジニアの人たちが東京の会社に勤めながら秋鹿で古民家を借りて住んでいるというスタイルは、一つの示唆に富んだものになっていくのではないかと思います。

将来どういう形になるのかはよく分からないのですが、やはり松江の子供たちに、ずっとこの松江で暮らしてくれるようなまちを将来にわたって残していかなければいけないのではないかなというように、この一連の取組の中で感じたところでご

ございます。

最後に、皆さんにいろいろ聞きましたけれども、ここにいる皆さんのうちに ALT を見たことがある人はほとんどいないということが分かりました。今の子供たちは、そういう意味で英語に触れられて良いなと強く思ったところでございます。新しい時代を担っていく子供たちが、本当に良い具合に育ってくれるように願っているというところでございます。

以上です。ありがとうございました。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

皆さんに御協力いただいて、意見交換の時間がもう少し残っておりますが、少しだけ皆さんのご意見をまとめさせていただくと、概ねふるさと教育、そして松江城授業プロジェクトは好評であったかなと思います。続けてほしいということでした。

ただ、それもこれも錦織学級の取組が良かったということで、子供たちの授業態度次第で評価も変わってくるのではないかなというように思います。子供たちの学ぶ好奇心が本当に素晴らしくて、まとまって学習意欲も高かったということから、このプロジェクトは有効であるということも言えるかもしれませんが、その中で、市長が最初におっしゃいましたが、いろいろなことが複合的に絡み合って、ガイドさんたちから聞いて学んだことをどう落とししていくか、どう伝えていくかということについては、それぞれもう少し御意見を伺いたいなと思っておりますが、市長、いかがでしょうか。

#### ○上定市長

皆さんのお話をお聞きして、更に意義深いなと思うとともに、塩川委員がおっしゃったように、「松江城授業プロジェクト」が定着してきて、先ほど触れていただいた犬山城との連携など、今後いろいろな展開が考えられると思うのです。

今、国宝5城で世界遺産を目指す取組をしていますが、そういった交流を姫路城、彦根城、松本城と一緒にやっていくというのもありだと思いました。太田課長から最初に話がありましたが、大町との交流はずっと続けていて、向こうからもよく来てくださっています。

コロナ禍も収まりつつあるので、今後は「松江城授業プロジェクト」で堀尾吉晴公

を知り、その生誕地である大口町に行って交流を深めるという流れができればと考えています。

また、大口町には大口小学校と大口西小学校の2つの小学校があり、生徒はみんな大口中学校に進学します。この間大口小学校が来てくださったのですが、数年後には中学校の修学旅行でまたいらっしゃいます。小学生のときに観鋭桜という大口町の桜の苗木を植樹してくださった生徒さんに3年後再訪してもらい、桜が大きく育っているとか、小学生のときに友達になった松江に住む同級生と久しぶりに会うということがあり得ますよね。「松江城授業プロジェクト」をきっかけに、交流が深まったり、視野が広がったりと、多面的な意義につながっていくことを期待しています。

#### ○事務局 成相副教育長

今、市長から「学んだことを使って広げていく。」という御発言をいただきまして、キーワードだなと思っています。ICT のことも外国語のことも含めまして、学んで広げていくということについて、何か御意見はないでしょうか。

原田委員、何かありそうな感じがしますね。

#### ○原田委員

最後の発信力が重要かなというところも思っていて、先ほど先生が授業中に「劇をしても良いし。」みたいなことをおっしゃっていましたよね。いろいろなところで、ふるさと教育の中で、例えば自分のところの偉人だったりとか、そういう有名な人たちを題材として劇にして、それを発信していくことで、実は知らなかった大人にまで波及していくこともあるので、先ほども言いましたけれども、最終形態が見たいなと思いました。

#### ○事務局 成相副教育長

ありがとうございます。

学んだらその成果を必ずまとめますよね。学んだらまとめて誰かに伝えるのですけれども、カイ先生に伝えるというテーマは、伝えるという目的ができるので、意欲付けに意味があるなというように思います。今おっしゃったとおり、誰に何を何のために伝えるかというところが重要ですよ。ありがとうございます。



ほかはどうでしょうか。お互いの御意見をお聞きになって、残っていることについてでも構いません。

#### ○多々納委員

これは総合的な学習の時間で扱っておられますよね。そういう点で、いろいろな要素をもつ授業だと思うのですが、タブレットに関しては、まだ導入されたばかりで、今から積極的に活用されていくということで、「こういう活用の仕方もあるのか。」と、子供たちが使っている様子を今日拝見できてすごく良かったと思います。先生とのやり取りもできたり、そこに入っている情報で子供たちがいろいろなまとめをしていたり、「いろいろな使い方ができるのか。」「ここまでできるのか。」と感じました。恐らくこれがもう少し時間が経つと、子供たちはしっかり使いこなせて、まさに道具としての使い方ができるし、それを使ってまたいろいろな発表もできるしということで、やはりこれは優れた道具だなということを改めて思った次第です。

それから、カイ先生に自分たちの発表を見てもらう、理解してもらうということから英語が入ってきたと思うのですが、英語を学ぶだけに終わるのではなくて、それを使っていろいろと活用するという点でもうまく授業が設定されたな、そういう点でもより広がりができたなと感じました。それとふるさと教育がうまく結びついて、一面的な授業ではなくて多面的な授業といえますか、子供たちにとって非常に良い面が身に付くし、いろいろ発表できるようになっていて良いと思いました。

#### ○塩川委員

失礼します。人に伝えるということについてはいろいろな手段・方法があると思いますが、例えば私がバスケットを教える場合は、中学生の部員の子を校区の小学校に出かけさせて技術指導をしたり何かを教えるようにさせると、こちらが教えたことがないことも自分で研究して、私よりもうまく教えたり、生徒に指導する力が身に付いたという経験があります。

ですから、なかなか時間がなくて大変だとは思いますが、例えば松江城のこういう学習を低学年の子供たちにうまく伝えるだとか、そしてタブレットなどを使って家庭でのコミュニケーションのツールとしてうまく活用すると、子供たちもいろいろな工夫をしながら伝わって、より深い学びになっていくのではないかなという気がしまし

た。家庭学習にもつながるかもしれません。

○金津委員

質問ですが、松江城授業プロジェクトの事後指導のスタイルについて錦織先生はあのようなスタイルを取られているということですよ。ですから、学校や先生によっていろいろ違うのですよね。ほかにどのようなスタイルの発表があるとか御存知ですか。興味深いものがあつたら、また何かの機会にやれるかなと思いました。

○事務局 安部小中一貫教育推進係長

今日はカイ先生に伝えるという最後のまとめにつなげていかれましたけれども、いろいろ学校に確認してみると、新聞を作成して貼りだしていくところもありますし、ほかの学年の子たちに伝えていく、保護者や地域の方に伝えるということもやっております。

今後、子供たちが観光リーフレットを作成したり、ミニガイドになって観光客に説明したりすることができるというなと考えております。

○金津委員

ありがとうございます。結構いろいろなスタイルがあるということで、そういう意味で他校との交流発表とか、他校の発表に触れる機会などがあっても面白いのかなというようにも思いました。

○原田委員

松江城には3年生でも行って、6年生でも行ってということは、すごく良いことだなと思いました。そのほかのふるさと学習のカリキュラムの中でも、小学1年生と2年生のときに身近な地域に関する学習を生活科でやられているということで、やはり実際に現場に行くことが一番の教育だと思います。コロナの関係で行事などが中止になったり、まち探検にもなかなか行けなかったり、ボランティアの方にもなかなか手伝わってもらえないという状況だったと思いますが、もうそろそろ通常通りに現地に行くということに力を入れていただきたいなというように思いました。

○事務局 成相副教育長

教育長、いかがですか。

○藤原教育長

私は、本当に大切なことは、プレゼンテーションなどで人に説明することだと思っています。当たり前ですけれども、人前で話すためには、より学習をしようという気持ちが出てくるものです。発表する内容の何倍もの学習をして発表につなげていくということをよく聞きます。是非ともそういう機会をもってやっていければ良いなというように思っています。

安部係長に「来年は教育委員会でプレゼン大会をやれ。」という宿題を出しておりますので、是非ともよろしくをお願いします。

○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。

市長、広がりというところのキーワードをいただいたところから、委員の皆さまからどうアウトプットしていくかということについての御意見をいただきました。最後いかがでしょうか。

○上定市長

先ほど金津委員がおっしゃいましたが、松江市内の小学6年生はみんな「松江城授業プロジェクト」を経験します。そうしたら、せっかくなので小学6年生が学校を超えて集まる機会があると良いですね。弁論大会、プレゼン大会のようなものがあって、「そういう見方もあるのか。」というよう話を同学年の子から聞いて、みんなで更に松江城の魅力に共感できる機会となればすごく良いですね。

皆さん、素晴らしい御意見ありがとうございました。

もう1点だけ。多々納委員がおっしゃった、タブレットのICTとか、英語の活用については、「総合格闘技」だと思うのです。今回の授業は、個人の学びだけでなくグループワークをするという前提があるので、例えば1の子は歴史が好きで、堀尾吉晴公のことをよく知っていたり、また英語が堪能な子がいて、カイ先生にどう伝えていこうかというときに力量を発揮したり、一方でICTに強くてパワーポイントをてきば

きと作っている子がいて、という具合に、自分の得意なところを出し合って、「みんなの力でできたね。」というような形になると良いですね。そのような状況を狙って作り出すのは難しいですが、自然発生的にそのようになれば素晴らしいと思います。

今後どのようにブラッシュアップしていくか、どのようにみんなで共有するか、さらにどのように外に向けて発信していくかといった点は、教育長もおっしゃったとおり、これから更に磨きがある、伸びしろがあるところかなと思っています。

○事務局 成相副教育長

ありがとうございました。貴重な御意見、ヒントになることを本当にたくさんいただきました。

松江城の授業を全ての小学6年生に受けてもらうというところに辿り着くまでに、教育委員会と校長会と大変に揉めた歴史があるというように伺っていますが、それを乗り越えて、今、良い形になっているなというように感じています。貴重な御意見、ありがとうございました。

最後、6年2組担任の錦織先生に拍手で御礼の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

それでは、予定しておりました事項を全て終了しましたので、以上をもちまして令和4年度第1回松江市総合教育会議を終了いたします。長時間にわたり貴重な御意見をいただき、本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日はお疲れ様でした。お気を付けてお帰りください。ありがとうございました。